友愛

発行所
友愛青年同志会
東京都文京区音羽町7の10　電話大塚（941）2801
編集兼発行人　渡辺　昇
定価　1部10円

入会申込は支部または本部までハガキで一報下さい
東京都文京区音羽七ノ一〇
友愛青年同志会

第八回全国大会に結集しよう

全国大会の体制ととのう

組織委　七地方に本部員派遣

新緑の萌えでる陽光のときに、本会第八回全国大会の開会を迎えようとして、今や全国各地ではあげてその準備の体制をととのえているが、組織の充実も別項四面のように各地でその成果をあげている。今回の全国大会は特に創立八周年を記念して盛大に行なう予定で、開会式には初の「功労賞」授与や尾崎賞の授与も行なわれ、午後には記念講演会が行なわれることになっている。参加代表者の名簿も続々届けられており、事務局も連日活気に湧いている。

本会組織委員会（委員長川手正一郎）では、既報のように春期組織活動の重点をきめて、全国組織の再点検や調査を進めると同時に、各地に県連結成の努力を続けてきたが、今回五地方に本部員を派遣した。本年には既に広島県連と北海道連の結成が終り、また四月十六日には福島県連が結成されるが、北九州、山陰、大阪、三重、福島の五地方に対する本格的組織工作は、大会を目前に控えて着々と成果を修めつつあるので、第八回全国大会の盛り上りが特に期待されている。

大会準備事務局もこれにこたえて連日深夜まで大わらわの活躍をしているが、代表者も既に一〇二支部地区から名簿が届いており、殺到する参加希望者をどのようにさばくか、会場宿泊部はテンテコ舞いの悲鳴をあげている。また今回初の功労賞を授与される表彰者は名簿も出揃い、記念品、賞状の発注も終っているので統制委員会の答申をまって、後は記者刻印ずるだけとなっている。更に、八ヵ年間にわたる本会後援者に対しては、この際全会員の名におい感謝状が贈呈される。

午後の特別記念講演会には、高木健夫氏（読売新聞論説委員）長谷川才次氏（時事通信社長）の二講師から中共問題、国際展望をお話し願う予定で、これには日本婦人友の会、文京友愛婦人会など友好諸団の聴講申込 みが殺到している。大会最終日の五日は、友愛山荘建設第一次計画完成記念の謝恩パーテーが尾崎記念会館で開かれ代表者をはじめ賛助者二六〇名余が招待されている。

論説

全国大会の諸問題

総力を結集のとき

第八回全国大会は、二年ぶりに東京で開催される。昨年はわれわれの努力の結晶である軽井沢友愛山荘において山荘生活を十分味いながら、静かなうちにも真剣な討議を行った。

本年は、尾崎記念会館および九段会館において、議事の他に、表彰式、記念講演会、記念パーティ、写真展示などの諸行事を展開するので華々しい大会となるであろう。大会に望むにあたって、特に次の点に留意して、より成果をあげたいものである。

一、友愛精神の再認識

最近、民主々義の危機が叫けばれている。民主々義の基本精神は友愛精神である。昨年の安保にみられた諸現象もテロ行為にも、民主々義を崩壊にみちびく要因に満ちている。

友愛精神は、尊重、協調の面で発揮されると共に、不正なものに対する批判、あやまる事象に向っての対決が必要である。

今こそ、友愛精神のきびしさに目覚め、相互扶助、相互協力、相互尊重の立場から、民主々義を守り、伸ばすために前進すべきである。

二、活動のしめくくり

昨年一ヶ年の会活動のしめくくりを行い、経過を十分検討し、地方活動を通じての意見を大会に十分反映するようにすべきである。

本部の活動指針について、また他地方の活動について、話しあへるだけの準備をして大会に出席しなければならない。

準備委員会では、大会運営の効果があがるように、最大の注意を払い、且つ地方代表が参加する大会運営委員会で、検討をするけれども、各代表も支部活動の経過報告書、意見書、機関紙等を提出して活動のしめくくりを行ないたい。

三、表彰者について

本会は、過去八ヶ年の間、全国的な統一組織を完成するために、全国的に友愛運動をすすめるために幾多の努力を展開してきた。

そのため中央、地方を通じて数多くの会員が、会運動に尽力してきたであろう。現在も続けて会活動に邁進している人々もあれば、各種の事情で戦列を離れている人々もあるであろう。

それらの人々の積み重ねの上に立って、始めて今日の本会の雄姿がみられるのである。

表彰者の多からんことを願い、表彰されざる人々の隠れた努力に感謝し、表彰は別としても、表彰に値いするよな会活動を、どしどし実行する決意をかためたい。

四、国際意識をわれらのものに

昨年は本会から海外に多数の代表を派遣し、今年に入ってからも後を断たない状況である。海外の青少年の受け入れも活発で、地方支部えの訪問も行なわれた。

海外交流は、他所のできごとではなく、われわれの仲間の交流である。これを機会に国際意識をたかめ、われわれのものにしたい。

会の広報活動の中では、海外の情況を知らせるのに、相当の努力をしてきたが、更に内容をたかめ、わかり易く適切なものにしたい。本会の会員は、国際意識と自分の間にミゾをおかないで、自分たちのこととして考えるようにしたい。

最後に、全国大会は年一回の会にとっての大行事である。参加した代表だけでなく、全国の会員は大会に注目し大会に全てを集中しよう。

世界の各層の人々を始め、国内の各層の人々も大会の成果に、関心を寄せている。

われわれは、全力を結集して意義ある大会にしよう。

同志が心から手をにぎりあって、心から励まし、心から視しむ大会にしようではないか。

マラヤ派遣本会代表

鶴巻、吉川君ら出発

（出発の挨拶をする両君）

マラヤ派遣日本青年代表団の一員として選ばれた鶴巻克雄君（常件幹事）吉川 昭市君（北海道 連会長）らの一行十二名は三月十八日KLM機で羽田を無事出発した。同日は各会関係者、本会会員が多数見送りに集まり、空港ロビーで盛大な歓送会を開いて両君の前途を祝した。

派遣団の一行は約一ヵ月程、マラヤ各地を歴訪、マラヤ青年対策、青少年活動、農村青年、労働青年の実情をつぶさに視察し、又両国親善のために、マラヤ青年クラブから招待されたものである。

一行の帰国は四月の二十二日の予定である。

友愛欧州産業視察団出発

カ伯との会見をかね

「友愛欧州産業視察団」の一行十五名は、十四日午後九時三十分スイス航空で、小雨けぶる羽田空港を出発した。

これは、バーゼルで開催されるスイス産業見本市に招待を受けた本会が、この機会にスイス及び欧州各地の産業を視察するために、派遣したものであり、十五名中本会関係者八名と、視察を希望する経済者八名を加え構成された。

羽田空港では、出発にさきがけて盛大な歓送会を開催、奥田吉郎幹事長の司会のもとに、植原悦二郎先生、会代表川手正一郎常任幹事の他各界の代表が挨拶、団長の本会常任参与の柳沢凝先生より、われわれは友愛で結ばれた同志であり、欧州の産業経済の視察は勿論であるが、友愛の名誉会長であるカレルギー伯にお会いできることが最大の喜びである。との挨拶があった。

一行の胸にある友愛のバッチが印象的であった。代表者氏名及び日程は次の通りである。

代表者氏名

団長柳沢　湲	本会常任参与 柳沢研究所長
田中　重彌	財団顧問 第一法規社長
竹内和志夫	本会賛助会員 第一法規常務
岩泉　忠吾	本会賛助会員 岩手県歯科医師会会長
井上　利一	本会賛助会員 井上産業社長
加藤　正見	都連顧問 中部観光重役
高杉　信美	本会常任幹事 東栄電設重役
和田　則彦	世田谷支部文化部長 音楽家

（元気よくタラップを登る視察団一行）

日程

東京・アテネ・ローマ、ニース、ジュネーブ、バーセル、チューリッヒ、パリ、ロンドン、フランクフルト、ジュッセルドルフ、ハンブルグ、ベルリン、アムステルダムストックホルムの各地を視察して五月十日帰国の予定。

高杉常任幹事談

A・A問題対策委員長の立場からいうならば、アフリカ行が本当かも知れないが、過去にアメリカ東南アを見ているので、自分としてはヨーロッパにゆきたかった。幸い念願がかない、この機会に会の使命であるカ伯との会談スイス青年団との交換に力をつくしたい。

和田則彦談

私は音楽を専攻しているので、欧州の音楽事情、特に音楽をきく観客の雰囲気などをみてきたい。ヘーグにいる叔父（田中耕太郎）に会うのを楽しみである。帰国したら、友愛の歌をいろいろ作曲してみたい。

新年度大綱決める

財団の小理事会

財団法人日本友愛青年協会では、昭和三十六年度事業の最終的検討のため、四月六日小理事会を開催し、北海道、猪苗代両友愛山荘の建設を含む諸原案を決定した。

これによれば、三十六年度内に両友愛山荘の建設に着手するほか、鳩山一郎伝記刊行、招待野外教育研修会、ホステリング賞（鳩山賞もしくは友愛賞）の新設、歳末兹善公演、演奏会）など総額一千六百万円に及ぶ予算規模になる模様である。

このため、四月より友愛山荘建設第二次計画に基く新規募金の開始をするほか有効適切にこれら諸事業を活用するよう特に本会員の協力を呼びかけている。

公告

本会機関紙編集局では新年度にのぞむに当って、紙面の一層の充実をはかるため、次のような新企画でページを飾ると共に、執筆陣も強化する方針であるが、特に地方会員も振って参加下さるよう要望します。

新企画
つわもの……友愛支部めぐり
時の人……内外時の人横顔
解説……政治学習資料
財団のページ……山荘の動き
栄養教室―健康増進の為に
※投稿掲載分に薄謝贈呈

民主社会主義研究会議青年学生問題委員会の研究会は、三月二十五日午後六時より、新宿区四谷の民主社会主義研究会議本部で開かれ本会から尾形智矩常任幹事が出席した。当日は蝋山政道民主社会主義研究会議々長をはじめ各団体代表及び個人会員が出席し、二月十六日の打ち合せ会で決定した研究テーマ「生活技術の問題」について二名の代表が都会、農村青年の立場から意見発表を行いそれをめぐって討議し午後九時過閉会した。次回は四月下旬「学習の問題」について研究会を開くが、討議にさきだち、本会の尾形智矩常任幹事が「青年団体における学習活動」について報告をおこなうことになっている。

第一證券
厚い信用堅実な経営
本店　東京・日本橋・三越前
支店　甲府・吉田・浜松・新潟・名古屋・他営業所全国20ヵ所

第八回全国大会日程表

5月2日	幹事会（午後4時）〔九段会館〕資格審査委員会（〃6時半）〔〃〕大会運営委員会（〃8時半）〔〃〕
3日	開会式（午前10時）〔尾崎記念館〕昼食・休憩（12時）〔〃〕記念講演会（午後1時）〔〃〕休憩（〃3時20分）本会議（〃3,40分）〔〃〕夕食・入浴・休憩（〃5時）〔九段会館〕分科会（〃7時）〔〃〕休憩（〃9時半）消灯（〃10時）
4日	起床（午前6時）朝食（〃7時）分科会（〃8時）〔九段会館〕昼食・休憩（〃12時）地方支部活動報告並びに綜合討議（午後1時）〔〃〕夕食・入浴・休憩（〃5時）〔〃〕懇親会（〃6時半）〔〃〕休憩（〃9時）消灯（〃10時）
5日	起床（午前6時）朝食（〃7時）本会議（〃9時）〔尾崎会館〕閉会式（〃11時）〔〃〕記念パーティー（12時）〔尾崎会館〕組織委員会（午後6時）〔谷中見明院〕

来聴歓迎

記念講演会

日時　五月三日　午前十時より
場所　尾崎記念会館ホール

記念講演
国際情勢の展望　時事通信社 社長　長谷川才次
日中問題の将来　読売新聞論説委員　高木健夫

直　言

▽ガガーリン少佐が「東方号」に乗って人類初の宇宙旅行者となった。われわれが幼少の頃、夜道の空にただ美しいなと仰ぎみた星の世界に、人間の機械文明が及ぼうとは、おそらく想像もしえないことであった。満月の夜、黄色く丸く輝くその天体をみて、あれは兎さんが餅をついているんだよと母に教えられて、なんとなくお餅を喰べたいと思った。そのような幼い想い出のしみついている天空もこれからは騒々しくなることであろう。

▽騒々しくなるのは天空での金属音のみではない。地上での国際法論争は一体どうなるのだろうか。国家の領域は不可侵なものとされその領域には領土、領海、領空がある。領空とは領土上の無限の彼方に及ぶとされていた。U2機は領空侵犯でうち落されたが、宇宙をロケットがとぶとすれば、従来の国際法は根本から考え方を変えねばなるまい。宇宙征服は何といっても大きな快挙であるには違いないけれども、夜となく昼となくわれわれの国土の上空を外国の宇宙船が飛ぶようになるということは、何とも奇妙な感じのすることである。

▽社会党は、破防法の時も警職法の時も、安保の時もすぐこれらが戦争準備につながるようなことをいって反対してきい。戦争は一向にわが国には起らなかったし、徴兵制もしかれていない。その社会党の言動の責任をあげつらう気持はさらさらないけれども、科学がここまで進歩すれば、ボタンひとつで国土は灰墟となってしまうだろう。今日この頃の遅れた郵便で赤紙を出してみても、一体どうなることか。思えば空々しい。

▽電車の中で、若い御婦人がこれからは宇宙株だとまじめな顔で話しておられた。人によってさまざまとは思うが誠にすさまじい株式ブームというべきか。なるほど株は高く上れば上るほどよいのだろうから、空の株はよいかもしれない。しかし、果して足元は大丈夫なのだろうか。えてして、空ばかり見てると怪我をしがちなものである。宇宙ブームはこれからますます上昇するだろうけれども、人が住むのはやはりこの地上なのだから、お互いもっと大地を大切にし、足元も充分みつめたいものだ。

友愛の或る視角

―その一―

ロベスピエールの「徳の共和国」

序

浜本英樹

クーデホフ・カレルギー伯が友愛革命を提唱して、世界を幾つかのブロック（例えばアメリカ州、ヨーロッパ州、アジア州、ソ連州、アフリカ州etc）に大別して、世界連邦を造ろうと主張された。

故鳩山一郎先生がカレルギー伯の「自由と人生」の邦訳をされ、先生が昭和二十七年政界に復帰された時、日比谷公会堂で「これからの政治――私の政治信念はカレルギー伯の提唱した友愛精神により行う決心しである」と述べられた。

占領下のもとに希望と夢を失いかけていた青年達が、この鳩山先生の政治信念に深く感銘し、友愛青年同志会がその友愛精神の何であるかを追求するとともに、哲学の貧困を世に訴え、広く友愛精神の普及によって、独立したばかりの日本に相互理解による平和を築くため発足することとなった。

友愛青年同志会も発足以来八年になんなんとし、世に幾多の事業を為してきた。

しかし友愛理論はカレルギー伯の「自由と人生」「思想は世界を結ぶ」、日大講師の深津栄一先生の「友愛の理論と実践」のみがあるだけである。友愛理論はまだまだ未完成である。

この友愛理論に誰れが自己反省したろうか、誰れがこれに挑戦したろうか……

私は友愛精神が何たるか知らない、故にそれを知りたい。

私が友愛青年同志会に入会して以来この希望、この夢は捨られなかった。

今私は友愛精神を求めて彷徨することによって、何か把めるのではないかというはかない願いのもとに思惟、思索する。

フラテルニテ

カレルギー伯の「自由と人生」の著書に「自由のための改革が立往生し、平等のための革命が失敗した後を受けて友愛主義の革命は、今や国民と国民との間、階級と階級との間に橋を渡し、もって彼らの全部に対して、自由なる人間が四海同胞たることの福音を伝えるであろう」（自由と人生二八三P）と述べて友愛革命の必然的妥当性を説いている。

この「友愛」は我々一般に知られている宗教的な用語としての友愛ではなくて、フランス革命のスローガンの一つを指す。

フランス革命は、自由、平等、友愛（フラテルニテ）をスローガンとして勃発した。

ここで私が探求したいことはこのフラテルニテがフランス革命の指導者達に、如何に理解され、如何に主張されたかということである。何故ならカレルギー伯の友愛革命がこれに端を発しているからである。

フランス革命が一七八九年勃発したのには色々な諸原因があった。

しかしそれらの重大なものは政治の腐廃（王制による暴政）、経済的貧困、カルビン、ルソーの宗教批反による宗教への不信、人間性への目覚であった。

人民に心の自由を、生活の平等を正しい政治を、天からいや自然から付与された全ての人間性を返還することを国王に、政府に要求する戦いであった。

明白にフランス革命の旗じるしとしてのフラテルニテを提唱したのは一七八九年の「コミューヌと国民公会」から理想主義者の群とされた「ジロンド派の手をへて、一七九三年政権を獲得した、現実主義者の群と呼ぶことの出来るジャコバン派のロベスピエールによってである。

ロベスピエール

ロベスピエールとは一体どの様な人であったか。それには、我々は過去の文献にたよるより他はない。ロベスピエールとマクシミリヤン・ド・ロベスピエールはパリの北上、ベルギー国境近くのアラスに一七五八年に生れ一七九四年パリのコンコルド広場――かつて彼が一七九二年十二月に国民公会においてルイ十六世の死を要求し、彼の首をギヨッティーヌによってはねることを主張した場所において彼も又首をはねられた場所――の露となった。

彼はパリのルイ大王学院で法律を学び後に弁護士となった。しかし彼は一七八九年の三部会召集迄は清廉潔白の士としての外にはほとんど知られていなかった。しかし彼はすばらしい学歴を持ち、学生時代にはヴォルテール・ルソー、レイナルを読み、カミユ、デムーラン・スタニスラス・フレロン、その他のちに革命の指導者となった利口な学生たちと無宗教と啓蒙を論じあったり、フランス全土にわたって、教会および国家の権威に対する同じ不敬の念、科学と理性とがはなやかな新世界を始めるのだという同じ信念をもっていた。彼はカトリックの学校で育てられたにもかかわらず、まさにそれ故にロベスピエールは反僧侶主義であった。彼の宗教はカトリックとくらべて何か他にあるもの――ルソーの「エミール」の様な――ピュリタニズム――を持っていた

フラテルニテとしての徳

ロベスピエールの哲学のキーワード（かなめ）は徳（ヴェルチュ）であった。「徳は人民の自然な性質である」となし、また彼の「国民公会をみちびくべき政治道徳の諸原則」についての演説によれば「我々の目的は何か」との問について「それは自由と平等とを平和に楽しむことであり、石や大理石ではなく、すべての人の心に刻みこまれているあの永遠の正義の治世である」これが彼のいう徳でありそれ故にこういう結論は必然的帰結である。彼は一七九二年の演説で「王権をくつがえしただけでは充分でない。我々の関心事はその廃墟の上に神聖な平等、そしておかすことの出来ぬ人権をきずくことである。共和国を構成するのは空虚な名ではなく、その市民の性格である。共和国の魂は徳（ヴェルチュ）――すなわち祖国愛、すべての個人的な利害を、社会全体としての利害のうちに解消する高潔な献身――である。自由の神殿はこのように正義と平等との土台のうえに建てなおされなければならない」まさに立法者のとりくむべき真の問題は反対派なく統治することであり、理想的な憲法の濫用またわ腐敗のない統制を規定することであった。

ロベスピエールの哲学のキーワードとしてのヴェルチュは共和国の魂であり、その各構成員の――人民――の性格であることを要求した。このヴェルチュこそが彼がフランス革命のスローガンとしてかかげた自由、平等、友愛のフラテルニテに他ならない。

哲学の貧困

この様な見解は政治上の理想主義者の見解が普遍そうである様に健全であると同時に曖昧でもあるという考えかたがある。しかし真の平和がここにのみ存在するというのはそんなにも曖昧であろうか？人間の最大の悲劇は矛盾を矛盾と感じながらもそれに目をつぶって押し進んで行かねばならぬという現象である。

文明科学の成熟した一九六一年においてさえ、今なお平和の根元をバランス・オブ・パワーに求めねばならぬ思想こそ一七九四年にロベスピエールが味わったと同じく道徳が科学に足並をそろえることが出来なかったことと全く同じである。「物理的秩序においてはすべてが変じた。道徳的政治的秩序では、どこにそれと同様の変化があるのか。世界はなかば革命化された。他の半分はどうすれば達成出来るか。人間の理性はなお、そのすみかである地球と同様である。半分は日にてらされ、半分は暗黒におゝわれている。しかり、われわれのこの魅力ある国土、この自然の寵児は、自由と幸福の王国たるべく造られた。その誇りたかく感情のゆたかな人民は栄光と善良とのために生れた。私はフランス人であり、汝の代表である。私の全存在の犠牲をうけてくれ！汝の中に生きるものは幸いである！汝の幸福のため死に得るものは三重にも幸いである！」ロベスピエールはかく絶叫した。そしてこの半分の暗黒に光明をさした。これが彼のヴェルチュでありフラテルニテである。

現実への安易

矛盾を矛盾として排撃し、自己の現実主義と自己の理想主義、であるが故に矛盾と戦わざるを得なかった。

力の均衡の思想はそれ自身、相互不信が前提となる。故にこの思想から相互不信の念をぬぐい去る契機はとうてい生れ得ない。それどころか、この思想によって、かえって不信をさい疑の念を相互に深めることになるのである。

現実への容易な妥協、我々は一九六〇年、即ちアイゼンハワー大統領とフルシチョフ首相との会見を単なる感覚でもって、平和がおとずれると錯誤したことは人類の楽観主義の顕著な現象であり、それがバランス・オブ・パワーの矛盾への堕落した妥協であることを認識すべきである。

友愛の基礎

彼、ロベスピエールが容認する憲法の唯一の基礎は「人権」であった。人権とか何か！自由であり、天からいや自然から与えられた全ての人間性である。この人権の使用上のルールが個人の相互信頼であり、相互の人格の尊厳である。これはジャコバン派――ロベスピエール派――のマラーの刑事立法プランを見れば明白である。又彼自身の一七九三年の「法的諸権利と政治的諸制度」にもうかがえる。

フラテルニテの経済機構

このようにフランス革命における最左翼のジャコバン派――ジロンド派、エミール派、デント派その他山岳派がいわゆるブルジョワジーとの妥協であったのに対し――の現である徳（ヴェルチュ）が――カレルギー伯の「自由と人生」の中の自由のための改革が立往生し、平等のための革命が失敗したあとをうけて――即ち友愛主義が次の世界に根を張るだろうことを確信する。しかしカレルギー伯の「資本主義の労働者が遥かに高い生活水準と多大の自由と安全とを楽しみつつあること、国家資本主義が到底私営的資本主義と競争し得ぬこと、ロシア労働者の楽園についてマルクス主義の実験が全く帰してしまったこと、等を如何なる単純な共産主義者でも皆認識してしまうまで、ソヴィエット国家は継続し得るだろう」ということは、ロシア以外の全人類にとって極めて興味深き事実である」と述べ友愛主義の前提日あくまで、資本主義前提のもとに置いている。この場合、友愛主義が、ロベスピエールの提唱したフラテルニテであると主張することが論理の矛盾を招致しないといいうるだろうか、フラテルニティズムの経済機構は資本主義でもなく又、現存する共産主義でもない。自由且つ平等のもとに相互信頼から出た経済機構でなければならない。友愛精神が自由主義の社会にも又、平等主義の社会にも属すが故に、そうであるが故に、それらのいずれにも基礎を置くべきではない。（それがどういう機構を取るべきかはこの次にしたい）

運動のルール

しかし友愛運動のキーワードは友愛精神による友愛運動であってこそ意義があるのであって、ヴェルチュの、フラテルニテのルールにしたがってこそ、それがヴェルチュであり、フラテルニテである。このルールを侵したヴェルチュやフラテルニテはもはやそれらの何ものでもないことを銘記すべきである。もしそうであったなら、友愛革命はフランス革命がそうであった如く又、共産革命がそうであったと同じ様な結果に終るだろうから！

そして最後にロベスピエールの没落が教えたものは「精神改革が制度から大衆への過程ではなく、大衆運動から制度への過程であるということである。しかし運動初期の間においては妥協にもとずく多数よりも「純粋な」少数をよしとすべきである。何故なら運動は啓蒙である。啓蒙は正しくなされなければならないから。そしてこれらの少数の指導者のもとに正しく導かれた大衆によってのみ運動は勝利を納めるだろう。我々が最も恐れるものは「ふとした安易な妥協」である。

（中央大学専攻科法学科）

曲り角に来た青年学級

樹神（こだま） 弘（ひろし）

この問題を書くにあたって、まず二つのことを前言しよう。その一は青年学級と通称しているが、青年団とおきかえてもよく、また両者を合せて青年活動と称してもよいと思う。

その二は私の立場である。この町（恵那郡岩村町）の社会教育主事で青年学級主事を兼務し、特に青年教育へ力を入れている。そして恵那地区（二市一郡）の青年学級連絡協議会長を二期連続してつとめており、加えて愛知県の二、三の青年団と四年近く交流をしている関係から、現場にいても視野は比較的広く、この稿は単に自分の町のみのことでなく、二市六町五村の実態の上に立って書いていると思って頂きたい。

〇 〇 〇

曲り角に来た現状の姿をづばりと言うなら、どこでも「人が集まらない」と悩んでいることであり、笛を吹き、そして踊っているのも役員ばかりと言うのが実感である。

総会を開いても数人の役員が出席するだけであり、これならと計画した講演や講座にも役員が数人。よくて十数人。出席率で言うなら一〇%から二〇%止りである。これは他市町村へ行っても、よく体験することで、役員諸君がしきりに気をもんで気の毒になる。

原因の追求をせず、人を集めることを打開策としてレクリエーション本位となって、お祭り青年団、レクリエーション青年学級となり、かえって非難をうけ、集まっても無意味無気力な集団にすぎず、それを学級や団の活動方向へ導こうとしても無理な話である。それでいて青年一人一人は活動の健全化を叫び、真剣に考えようと言う。世論調査をしてもその結果は判で押したように、同じようなことが出てくるが実際になると遊びには出席しても教養には欠席である。

そのうち役員も、いや気がさして放り出す、つまり崩壊が始まる。落石と同じで落下速度は実に速い。これは全国的傾向と言って、決して過言ではない。

〇 〇 〇

では原因を考えよう。三つあると思う。その一は青年自身の誤り、その二は指導者の誤り、その三は社会環境の誤りである。

青年自身の誤りはその利己主義的な考えにあり、遊ぶことには出席しても、考え話し聞くと言った固苦しい教養的なことは敬遠する。つまり明日の心の糧より今日の酒の方がうまいのだ。利己主義から奉仕的な精神は無惨に踏みにじられて、すぐ馬鹿らしいと言う言葉を吐き、話し合いは、（すべて政治の貧困）と結論を出し、俺たちだけあがいたってと言う。グループ活動は仲間づくりと言いながら特殊な仲間をつくり、新しい仲間を受け入れようとしない。経済的なことになっても、会費団費は出し惜しむが、飲むことならOKと金を出す等々、幾つもの矛盾を平気でおかし続けている。

しかしこれは青年ばかりを責められない。先きに述べたその二、三の誤りがあるからだ。そのごの指導者も誤りをおかしている。「今の若い者は」と言う先入主観、自主的にやれと言う逃げ口上、自分から青年へとけ込んでゆこうとせぬこと、また指導者ぶることは青年に一番嫌われる。

文部省や県の指導者は理論的には成程と思うが、実地経験のない机上空論が多くて、余り頼りにはならない。

現場にある指導者に仕事が多すぎる悩みもある。その三の誤りは、青年を利己主義へ追い込む社会環境だ。職場で家庭で大人達が利己主義の手本を示し、一方マスコミもそうさせる。レジャーブームをあほり、レジャーは遊ぶものなりと言った誤った観念を植えつけるのも一例だ。

〇 〇 〇

一、二、三について具体的に、そして突き込んで書く紙数がないが、青年は指導者と社会の罪にし、指導者は青年と社会を責め、社会は青年と指導者を責めているのが実情で、悪巡環の表現がぴったりあてはまるのが、実態とも言える。ではどうするか――。解決策には現場にあって悩み、手さぐりで求めつつある私だ。自分の力の限りを職力を通じて努力しているが、別の機会に書くとし、今回は、紙数の関係であえて問題提議の型として無責任のように筆をおく。

（筆者は、岐阜県岩村町 社会教育主事）

沖縄青年代表との懇談

日本青年団体国際委員会主催による上京中の沖縄青年代表団歓迎懇談会は、三月二十三日午後六時より青山の日本青年館で、国際委員会加盟の各団体代表が出席して開催され、本会から尾形智矩常任幹事が出席した。懇談会は、なごやかな空気の主で開かれ、まず、国際委員会の中尾事務局長の歓迎の挨拶に始まり、つづいて沖縄青年代表団の島本団長から上京までの経過と代表団の構成についての説明があり、団員の自己紹介の後具体的な話し合いに移り、沖縄における主な青年団体及びその活動情況、日本の青年団体に対する希望等が代表団から述べられ、次に沖縄の本土復帰問題、今後の日本青年団体と沖縄青年団体との具体的な協力関係等につき意見が交換され、午後九時閉会した。

なお代表団の説明によると沖縄における主な青年団体は、沖縄青年団協議会、産業開発青年協会、農協青年部、生長の家青年部、教育員会青年部、沖縄自由協会、沖縄健青会、青年商工会議所、の八団体で、最近になりこれらの団体が横の連絡をとるようになり、その主な活動は、本土復帰運動、国内研修を続ける運動、青年の家を建設する運動等の共通な問題に対して協力して努力しているとのことである。

日本大学講師 深津栄一著

国際社会の法構造

待望の書遂に発刊

今や国際社会を離れて国家も個人も存在を許されない時代である。著者はここに国際法の構造と国際社会連帯の意識との関係を見事に解明。

本書は変転きわまりない国際社会の法構造を理論的に分析するとともに、先例、判例を豊富に取り入れて実証的に検討した好著。とくにヨーロッパにおける十六世紀以来の国際社会の成立と発展の過程を歴史的に考察し、国際連盟、国際連合等の国際組織の発展と対応して国際社会が如何に変化したか、国際法の構造が国際社会連帯の意識とどのような関係にあるかを詳細に論究している。国際関係の動向が国内政治のあり方と強くむすびついている今日、国際問題理解のために専門家のみならず、一般の人々や学生諸君の必読の書である。

内容

はしがき
一、国際社会の法構造
二、慣習国際法の性質
三、国内裁判所における国際法
四、国際法と国内法との「合致の推定」の問題
五、領域主権の法構造
六、ヨーロッパ統合の法構造
補論
一、国家領域限界画定に関する諸問題
二、領海の範囲に関する法
三、大気圏外の利用をめぐる国際連合の討議

【申込先】
友愛青年同志会事務所

A5版 美装 函入
四〇〇頁 定価六八〇円

東京都台東区蔵前一ノ二
振替 東京 四六、七二六
電話 (851) 三八二二・三八九五
新生社

日印農村青年交換に参加して

柳沢喜介

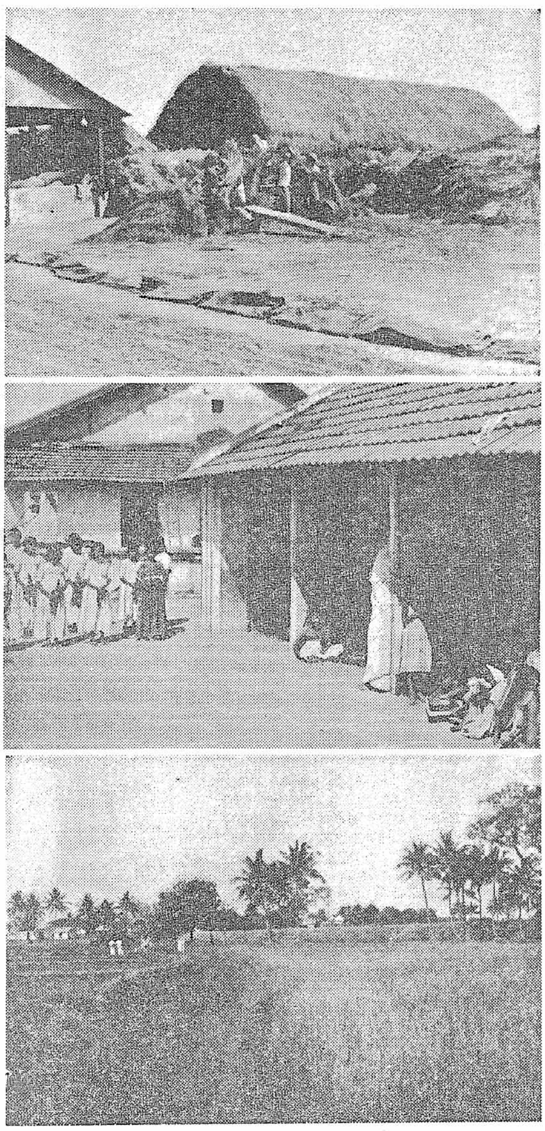
インド青年農業連盟（YFA）の招きを受けて、一月下旬より三月中旬までの五週間余りを過してきた柳沢喜介君（長野県御代田支部、本会農村対策委員）がこのほど帰国したので、その報告かたがた主として農業視察に重点をおいて見てきたインドの姿をここに記してもらうことにした。

インドへの路

此の度のインド派遣に対しまして皆様方のご推選により、日本の農村青年を代表し、参加させていただく機会をえましたのは皆様のご協力によるものと心から感謝致しております。さて、私達一行、七名は一月二十四日、夜、未知の国インドに対する期待に胸をふくらませながら、多くの知人、先輩に見送られ、エア・インディア機で日本を後に致しました。ひと眠りして目が覚めると、左手前のプロペラが止っているのに気がつき、これで無事、インドに行けるのかと不安にかられながらも、ついうと〳〵していると沖縄空港へ不時着とのアナウンスに、ほっと致しました。南のあたゝかい風に小雨をまじえた小緑空港にて、エンジンの修理を待って、早い朝食を取り、見なれぬ他国の地を見ながら古き戦さを思いうかべておりましたが、飛行場の近代化により戦争の後も見られず、こゝも過去には※日本であったと思い思いうかべておりますと、私達のエアーインディアは明朝でなければ、なおらぬとの伝言に内心、小おどりしながら、二台のタクシーに分乗しホテルに入りました、ホテルの近くは、農家あり商店ありの新旧共にした、新興市街で塀商に良い道路が民家を区割した感じを受けました。その道路に「こし」のまがった百姓おばさんがヨチ〳〵と歩むすがたが印象的でした。夜飛行会社の招待で「松の下」、料亭で夕食会が開かれ、沖縄のおどりと料理に旅のつかれをいやし、翌日また、鳥も目覚めない早朝四時にホテルを出発し、五時日航機で香港へ向って出発しました。

一路香港に到着し入国と税関手続を終り、ホテル出迎えの自動車で九竜市にある、ミラマホテルの客となりました。車内から眺めた香港の町は、写真で見る美くしいニューヨークに、東京の団地のほし物と中華料理を盛った、複雑怪奇な印象を与えました。渡し船で香港島に渡る時の遠景は高いビルが丘にへばりついて乱立している物静かな景色でしたが、一歩島内に入ると、漢字ばかりの看板と中国服、油でよごれた、商店など、いかにも中国らしくあてもなく市内を歩き、銀行の多いことゝ、門番が鉄砲を持って道行く人達を見ている姿は、さすが話に聞く香港だと感じ入りました。香港の表面を見て、ホテルに帰り、食堂で、メニューを見て、またおどろきました。遠い他国に来て、日本の神戸牛の肉が好かれ、多くの人々に珍重されているのを見て、私達百姓の内にも世界市場に進出している人がいるのだと感深く、日本農業の発展を嬉びました。翌日十五時十五分、BOAC機でインドニューデリーへ向け出発し、途中、バンコックを経由して、太陽の国インドへ二十七日二十一時十五分無事到着しました。カーキー色の服を着た係官、殺風景な空港は疲れた、私達にとって休まらないなにものかを感じます。税関で現金、カメラ、トランジスターラジオ等の持ち込み申請がやかましく、困っているところへ通訳のヘムシンさんが来て無事終り外へ出ると受け入れ団体の会長、（農林大臣）のご夫人等が首に美くしいレイをかけて下さり疲れもわすれ、喜々として二台の自動車に分乗しニューデリーの宿舎に当てられている大臣官邸へと夜道を急ぎました。途中、時々二つの青い光にギョッとしましたが、これは自動車のライトに照らされて光る牛の目だったのです。

宿舎の官邸に入る時、ふたたび花輪を受けて懇談の上、大学の先生の家へ分宿しました。翌日、農林省にてオリエンテーションを行いインド農業説明を受け、未開なインド農業の将来の重大さを知りました、私達日本人に大きな期待と尊敬をいだき第二次戦争に於て日本がインドの独立の手助をして下さり、その上、チャンドラ・ボースが日本に於て親切にされたと感謝され、私達も責任のようなものを感じました。夕方まで農業の説明があり、宿舎の先生の家に帰り、インドの家庭料理に親しみましたが、何分にもカレーの辛さに味もわからず、その上二人のコックがうすよごれた服装、手づかみで、お皿に取りわけてくれるのを見ては、美味しいはずの料理ものどが通らなくなりました。二十九日にはイギリスの残した美くしい並木道、独立後に出来た国会議事堂又その周辺の政府高官の住宅はニューデリーの名にふさわしく隣接して居るオールドデリーの昔ながらの古い姿と対照的で、独立十年の歩みを身に感じながら、大理石の石畳の上をす足で、ガンジー翁の墓、ラジャットに詣でました。続いてIYFA本部のレセプションに出席し、大臣をはじめ関係各省の人達となごやかな一時をすごした後、独立記念式典閲会式のパレードに参列し、夜十時、汚い汽車の中で使うように用意してくれたスリーピングバックを持ち駅へ自動車で乗りつけると、声をかけずして多くの赤い服と赤いターバンをまいた、青年と初老が集って来てことわりなく、私達の荷物を持ち出していく、あれよ〳〵と思いながらも、これが赤帽ならぬ、赤ターバンかと、安心して運ばせました。彼達は多くの料金を取るがために二つのトランクを頭にまた二つのスリーピングバックを両腕に持ち、ホームに入っていき、私達の乗る車両をさがして持ち込んで呉れました。料金をくれとばかしに手を出し、何事かをつぶやいている。そこへ、私達のガイド・デーワン君が来て、三ルピー（二百二十五円）でがまんしろと出すと、声をそろえて少なすぎるあと三ルピー呉れというので、二ルピーを与えて行けとおいはらいました。彼等はうらめしい様な、うれしい様な顔をして行ってしまいましたが、考えてみれば九人分の荷物を五人ではこび一人、七十五円とは安すぎます。国民生活を見るにはとホームに下りおどろきました。いたる所に赤い血のような物が吐いあり、ケッカク病の多いことゝ、あきれましたが、左にあらず、インド人は木の葉にとうがらしと何か、赤い物を包み、これをかんでは吐き出すからなのです。



写真㊤農家の収獲風景㊥授業中の農村小学校㊦収獲近い田園

牛の病気でもある州立畜産研究所

畜産研究所見学のため四時間も自動車にゆられて行き、私達を待っていたのは多くの研究所員と白牛でありました。これも多くは伝染病の牛で殺さねばならぬのでありますが、ヒンズー教の神様の使いとあれば、殺すことも出来ず、死ぬのを待つか、自然に全快するのを待つかの二つの方法しかありません。

研究所員は研究のためと考えているが十分な手当ても出来ずに収益の少ない牧草を与えてやらねばならぬのでした。白ブタ二十頭程を今後、肉を食べる様になった時のために肥育研究していましたがこれも食べずに研究のみでした。肉を食べずに栄養失調の人々が多く目につき、畜産物によるタンパクは牛乳のみにて、魚、鳥などはお金持の一部分の人達に食されているのには気のどくでなりませんでした。今後の問題として食生活の革命がおきるのではないかと感じました。

生活に直結している地主と小作人

昨年、インドの青年が日本へ来られた時の団長、アニール・ジャベリ宅を訪問しました時道行く多くの小作人が目礼をして通るのには見当が分らず困りましたが、聞くところによると、彼が家屋、農地家畜まで与えては仕事をさせているのですから小作料として牛乳を安く買い上げているのでした。主人に対して小作人は生活安全を守るために必要以上の心づかいをしていた。

ボンベーのミルクコロニー

ココヤシの林につゝまれた高台に市内に牛をなくし、また経営の合理化、農民の生活の安定をはかる目的として行なわれている。酪農共同経営でした。ここに参加している農民は中流以上の農民でありますが、個人経営の時の収入よりも三十%も増加しており、しかも生活の安定、合理化が出来、将来の希望を持てるようになったと顔をほころばしていました。生産された牛乳はこの計画によって出来た、オートメーション牛乳工場に運ばれ、殺菌処理の上市乳として学校などへ配達されているのでした。私もこの計画を立てた市国がうらやましく思いました。日本全国の酪農家が行なうならばもっとすばらしい農村となることと考えひそかに計画を立ててたのしみました。

日本農業モデルセンターを作れ

インド農業の収量の少なさを見て農林大臣に日本ではインドの四倍の収獲を上げていると自満話しをしましたら、十谷の土地と家屋を上げるから六ヵ月位、農耕して呉れとたのまれました。私も日本農業の優秀さを紹介するとともに、今後日印友好、思想、文化の交流を深めるためにも、海外進出の足がかりとして、とどまりたかったのではありますが、自分の土地があり農耕せねばならず、申し分けなく思いながらも、今後の交換において農業技術の交流をするべく約束して、三月四日ニューデリーを後に帰国の途につきました。途中、バンコック、マラヤ、シンガポール、香港と六日間の滞在をして四月十日PAA機に皆様方の出迎を受け羽田へ元気で帰ってまいりました。

友愛俳壇

内山一草堂選

東京　川上記世女

春愁の鏡に乳房ふたつあり

われとわが乳房はしろし春の夜

湯あがりに香水つけて春惜しむ

日光　逕田晃翠

冴え返る朝末の子はすねてをり

お隣りも日曜大工日脚伸ぶ

新聞を読み返したり春炬燵

横須賀　高野政利

木瓜一枝根付きて雨の朝明ける

母の手のあまりに赤き春火鉢

北川氏にさゝぐ

春の夜の父となる日は遠からず

東京　中村女酔

春愁のキャンバスに塗るエメラルド

春惜しむ夜の銀座のファッションショオ

尾道　実井忠義

のどかなる瀬戸の海辺の波静か

さくら鯛夕日を浴びて躍りつゝ

岐阜　高山朔

のどかなり春のデモ旗僅かにて

若草はうち捨て黒き土をにぎり

（選者吟）

友愛俳壇にしば〳〵投句された
五竹老人健在なりや

あふこともなくて桜の散りかゝり

遺句　花ふぶき　土屋なか緒

鳩山も大観もなく花ふぶく

朝ばらけ墓石に散る花の色

花ふれば水にぬれたる墓の色

（四月七日早朝墓参をして）

財団だより

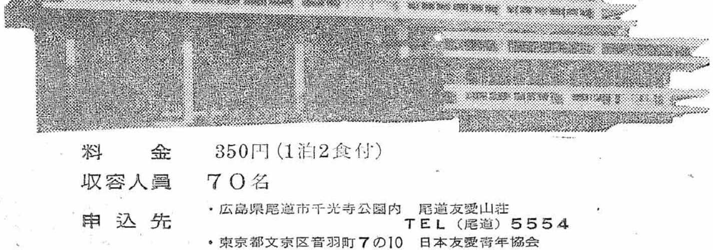
新顧問就任……かねて永野重雄、宮川三郎両理事の肝いりで就任方の懇請が進められていた財団顧問（賛助員）に次の各氏が就任された。

（三月関係分）

伊原隆（東銀常務）石田博英（労相）出光計助（出光興産社長）加藤弁三郎（協和醗酵社長）神谷正太郎（トヨタ社長）木下正美（東海銀行専務）田中重弥（第一法規社長）中島慶次（王子製紙社長）藤川一秋（東都製鋼社長）

決算きまる……昭和三十五年度の総決算は山荘収入を含め総収入が九、一三七、四六五円、支出総計が八、七七六、〇一九円であった。三十五年には特に両山荘の増改築、施設整備も行なったので、資産の総記は一、九〇〇万円に達している。山荘経営では軽井沢が延六五二九名尾道が延二二三〇名の宿泊者があり、益金四九五、七一三円を計上している。

理事会開催……昭和三十六年度の事業計画、予算案などを審議するため、四月二十六日尾崎記念会館で第三回理事会が開催されることになった。今年度事業計画は北海道、猪苗代を予定する第二次建設計画を含め総額一、八〇〇万円に達する予定である。



尾道　友愛山荘
年中開設

料　金　350円（1泊2食付）
収容人員　70名
申込先
・広島県尾道市千光寺公園内　尾道友愛山荘
TEL（尾道）5554
・東京都文京区音羽町7の10　日本友愛青年協会
TEL（941）2801

地方だより

県連文化祭盛大に行われる

広島

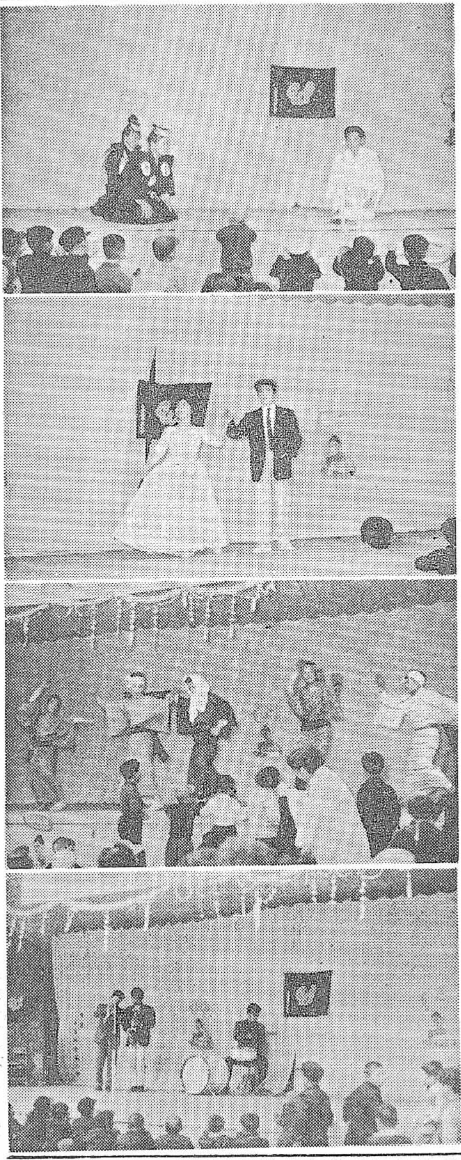
広島県連（会長高橋最宜）では四月九日、尾道市千光寺公園屋外場において県連文化祭を行った。会場には約千五〇〇名程の人が集り地元尾道支部を始めとして広島支部、世羅西支部、瀬戸田支部、などの会員有志がそれぞれ自慢の踊りや、のどなど多彩な芸を披露して満員の観衆の拍手喝采をあびた。

県連行事としては最も大がかりな催しでもあり、会のP・Rもかねて全会員の協力のもとに文化祭は成功裡におさめた。

県連文化祭プログラム

民 謡（尾道支部）
—尾道小唄—
蔵本侃外一同
寸 劇（世羅西支部）
—珍談忠臣蔵—
「配 役」
大内蔵之助……原 紀法
吉良上野助……井原 正男
浅野匠内頭……森岡 正行
外

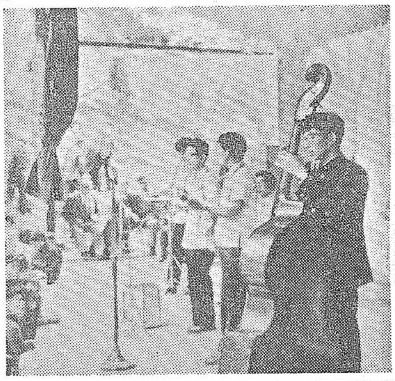
舞 踊（瀬戸田支部）
—相馬盆唄—
歌謡曲（世羅支部）
日本舞踊（尾道支部）
—深川筋—
蔵本 侃
豊田 林治
ブラスバンド（瀬戸田支部）
指揮 植原 秀雄
日本舞踊（広島支部）
—春 雨—
前田 愛子
広竹 富子
木原 淳視
歌謡曲（尾道支部）
舞 踊（世羅支部）
—五ツ木の子守唄—
政清美智子
長岡多寿子
福永 隆幸
歌謡曲（広島支部）
舞 踊（尾道支部）
友愛ハワイアンバンド（広島支部）
第一部 ハワイの夜曲集
第二部 民 謡 集
第三部 歌謡曲集


【写真左上より、世羅西支部、尾道支部女子、尾道支部男女、瀬戸田支部の熱演風景】

広島県北総合支部結成に

先般来、支部結成や文化活動で活発な動きをみせている広島県下では、全国大会を前に、槇本実君（双之郡布野村）を中心にかねてから県北総合支部の準備を進めていたがこの程、来る四月二十九日その結成式をみるに至った。

連絡所
広島県双之郡布野村役場内
槇本 実


【広島支部のハワイアンバンド】

福岡県連結成 準備委員会発足

去る三月三十日より北九州の組織強化に派遣されて活躍している尾形常任幹事の成果がようやくあらわれつつある。今般の福岡県連結成の運びも尾形常幹の派遣を機に進められ、準備委員会が発足したものであって福岡県連結成準備委員会第一回会合は、福岡県町村会館会議室にて四月十日午後一時より開かれた。参加支部は、福岡支部、久留米支部、三井支部、早良支部、遠賀支部、豊前支部、の各六支部で、今後の運動について活発な意見の交換がなされた。

準備委員長 十中 勝吉（久留米支部）
副委員長 山野 巧典（福岡）
同 井上 高義（三井支部）
同 上田 正吉（豊前支部）
事務局長 矢野 秀敏（福岡支部）
同 次長 樋口 毅（早良地区）
委 員 柳井 博幸（遠賀支部）
〃 木村 武章（宗像地区）
〃 高松 大和（八幡地区）
他に各支部、地区責任者予定

○県連結成予定日、七月九日または二十七日
○当日は本部より会長、副会長幹事長らを招へい。
○結成大会会場は町村会館の予定
○結成までに会員獲得工作を大々的に行う。
○本部よりもう一度五月下旬から六月上旬にかけてオルグの派遣を要請する。
○結成式後は九州地区研修会を開く予定。
○友愛山荘建設を本格的に検討する（福岡市内の準友愛山荘とは別に）

以上の決定をみて、決意を新たに結成準備にとりかかることになった。

大阪茨木支部

支部通信

沖縄青年代表と懇談

○ 三月三十日より三日間にわたり、東阪した沖縄青年代表団歓迎に際して、在阪各種団体と協力して行った。特に三十一年に行われた歓迎レセプションには、山崎、井上、寺川の三幹部が出席して、深夜迄懇談を重ねた。

支部旗作成

○ 大阪茨木支部ではかねてから支部旗作成を急いでいたが、この程出来あがり全国大会に各地方代表の方々に披露する予定。

三重県

桑名支部

役員もあらたに 充実をはかる

三重県桑名支部（支部長山川昇君）では、三月五日支部総会を開催、第八回全国大会を前にして、今後の方針を検討し、主要活動方針の決定と新役員を選出した。

主要活動方針

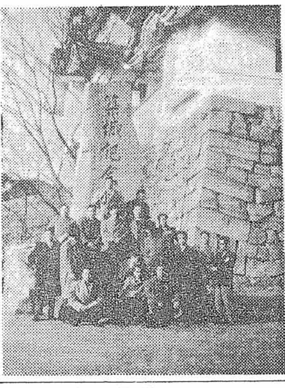
一、会の目的の再認識と、友愛運動の実践
一、友愛組織の拡張と充実
❶四日市支部の結成
❷農村青年に対する組織の働きかけ
❸三重県連結成の早期実現
❹県下各支部、地区の連絡と、懇親

昭和三十六年度新役員

支部長 山川 昇
副支部長 片山 昇
〃 伊藤 幹生
事務局長 中村万寿夫
会 計 熊沢 寿一
幹事長 堀田英之助
幹 事 柴山正太郎
〃 柴山喜久夫
〃 田中 三俊
〃 矢野慶太郎
〃 山下 重弥
〃 水谷 武
〃 沼 政昭

新役員を選出した桑名支部は、三月六日の小春日和の一日を月ヶ瀬に観梅にでかけ、上野支部との交流を行った。

なお、桑名支部の機関紙「月刊友愛桑名」は、この三月をもって、十三号を数え、ますます充実をしめしている。


【写真は川崎会長を囲む桑名支部員】

世田谷支部結成

都連の充実目ざす

かねて、山田元樹君（本部企画部長）蓮見和良君（都連常任委員）を中心として準備中であった世田谷支部は、四月二日午後二時より世田谷区医師会館において、支部結成を行った。

結成大会は、医師会館中央ホールで開催され、本部幹事長奥田吉郎君、都連委員長柳沢定勝君の本部ならびに都連を代表する挨拶があり、来賓として、経済企画庁長官迫水久常先生、本部参与柳沢還先生、都青協渉外部長佐藤浩一氏の挨拶が行はれた。

そのご議事に入り、議長に山田元樹君が選出され、世田谷支部規約当面の主要活動方針、役員の決定を終了した。

議題終了後、四月十四日スイスに出かける和田則彦君（文化部長）の壮行会と、更に記念行事として映画「鳩山首相と日ソ交渉」「マラヤのあけぼの」を上映した。

支部事務所
世田谷区祖師谷二の四三一
山田医院内 電話（416）一三八四

支部役員
支部長 蓮見 和良
事務局長 小林 登
会 計 高橋 信幸
会計監査 佐々木茂郎
同 山田 元樹
常任委員
組織部長 百瀬 邦夫
渉外部長 熊谷 勝次
文化部長 和田 則彦
高瀬 宏郎
千葉 直治
藤川 競士

主要活動計画
一、友愛精神の普及活動
一、建全なる青少年の育成活動
一、社会福祉事業に積極的協力
一、青少年団体との連けいと協力
一、会員拡大運動の展開
一、友愛都連への積極的協力
一、第八回全国大会への参加

支部活動
研修活動（講演会、座談会、研修会等）
文化活動（映画会、書道会、華道会、コーラス、ハイキング等）

蓮見支部長談話

世田谷は青年運動のもっとも困難な所ですが、友愛精神を基調にしてそれを克服し、世田谷区の建設友愛の発展につくしたいと思います。

坂野泰巨君（神奈川）

標語募集に入選

神奈川県及び、神奈川県青少年問題協議会主催による「第六回青少年の自覚を高める運動」の行事として、青少年に対する標語の募集が行はれた。

これに広募した本会会員坂野泰巨君（茅ヶ崎市）は、見事入選をし三月一日知事賞を獲得した。同君は、友愛を主題にした標語を数点出したのであるが、そのうち次の「友愛による神奈川の建設」が入賞した次第である。

北川事務局長

長男友一郎君誕生

北川登（財）事務局長は内外の難問題をかかえて八めん六ぴの活躍に東奔西走しているが、このほどお目出度があり、去る四月四日キミ代夫人との間に長男友一郎君が誕生した。母子ともに健全とのことで事務局の話題をにぎわしている。

発足準備進む

選挙法改正運動協議会

去る四月六日、選挙を正しくする青年団体会議が、市政会館において催され『選挙法等改正意見について』検討した。

従来から公職選挙法、政治資金規制法の改正については、種々意見が発表されていたが、この会議では、参加各団体が揃って認めることのできる基本線をうちだしたものである。

当日は、選挙法改正運動協議会の発足を準備する意味も含まれていたので、婦人団体も出席し、大要次の事を審議した。

一、選挙法改正運動協議会の組織方針
二、選挙法改正協議会々則
三、選挙法改正運動の活動計画
四、選挙法改正運動協議会予算案

以上の結果、四月二十日に、選挙法改正協議会の発会式を挙行することになった。

なお、当日、本会からは、宮田靖君（常任幹事・総務部次長）が出席した。

楽しみの多い証券貯畜
岡三の投資信託
只今募集中 1口 5,000円
あなたのマネー・コンサルタント
岡三証券
本社 大阪市東区今橋2の3
支店 東京・名古屋・京都他全国主要都市
資料のお申込は
東京日本橋局区内
岡三証券業務部

うちの くるま！ プリンス！
ご家庭で…会社で…そう親しく呼ばれています
■これからの高級乗用車に要求される条件をすべてとり入れた 高性能への信頼感
■合理的な横一列4ランプを中心にした 美と気品にあふれるトップスタイルの魅力
そこで プリンス・ニュ－スカイラインの愛用者の方々が プライドを持って言われるのです
「うちの車は プリンス！」
プリンス／4ランプ・70馬力
ニュースカイライン
新型・スタンダード乗用車
プリンス自動車販売株式会社
製造会社 富士精密工業株式会社